



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>研究主題 「自分の思いや考えを広げたり深めたりできる児童の育成～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～」</p> <p>○主体的な学びの視点 ・意欲的に取り組めるような課題設定の工夫 ・課題解決へ向けた見通しおよび振り返りの工夫</p> <p>○対話的な学びの視点 ・効果的な対話の設定</p> <p>○深い学びの視点 ・教科による見方・考え方を働かせて課題を解決する。</p>	<p>○授業時数を極力減らさず、研究授業の時間を確保するために、月1回の校内研究日を基本とし、小中一貫研修会で校内研の内容を行うなどの工夫をする。</p> <p>○放課後に個別指導の時間を設定し、授業中の個別指導に加えて、授業時間外にも個別指導を行えるようにする。</p> <p>○算数習熟度別少人数指導を充実させるため、専科教員を更にT2として配置し、個別指導の機会を増やす。</p>	<p>○全教員が新学習指導要領について研究した上で、授業を行い、教員一人一人が児童の確かな学力の育成に向けて、授業改善に取り組む。</p> <p>○小中一貫教育実践校の研究を生かし授業に取り入れる。</p> <p>○日常の授業観察では、指導案を作成して校内で公開し合い、教員が互いに学び合っ授業改善に生かす。</p>	<p>○ねらいに則して評価計画を作成し、個に応じた評価を行う。</p> <p>○指導者が適切な支援を行うとともに、児童相互にかかわりをもたせ、自分の取組を振り返らせる。</p> <p>○ノートや学習プリント等を基に、指導者がその時間の活動を評価するとともに、次時へ向けての支援計画を立てる。</p>	<p>○ホームページや学校だよりで研究授業の様子を伝えたり、学習で使ったワークシートに保護者の記入欄を設けたりして、家庭、地域への啓発をしていく。</p> <p>○地域コーディネーターを通じて地域の人材を活用できるようにする。</p> <p>○学校関係者評価を授業改善に生かす。</p>